

# 集落カルテ事業とは

- 人口減少や少子高齢化が進行する中、集落の課題を正確に把握し、解決への支援に向けて基本情報を収集する
- 集落の基本情報をカルテ化し、全庁的に共有し、各部署が集落の課題を把握 ⇒ 解決へと繋げる

## 調査項目

- |              |                     |              |               |
|--------------|---------------------|--------------|---------------|
| 1. 認可地縁団体    | 6. 区費               | 11. 集落での困りごと | 16. 空き家       |
| 2. 集落内の組織    | 7. 集落の予算規模          | 12. 数年での変化   | 17. 自主防災組織    |
| 3. 役員任期      | 8. お祭り等の行事          | 13. 区への未加入軒数 | 18. 一時避難場所 など |
| 4. 区が保有する資産等 | 9. 集落に伝わる歴史・文化・暮らし方 | 14. 人口       |               |
| 5. 集会施設      | 10. 集落の担い手・後継者      | 15. 世帯数      |               |



### 若者流出、区長担い手不足…

2020年の国勢調査（推計）によれば、坂井市は人口が約1万5千人に減少し、高齢化率は約30%に達している。若者流出が顕著で、区長も高齢化が進んでいる。集落カルテの作成は、こうした課題を把握し、支援策を講じるための重要な手段である。

#### 坂井市

### まず24限界集落 支援探る

坂井市は、24の限界集落を指定し、支援策を講じている。限界集落とは、人口が100人以下、高齢化率が50%以上、若年人口減少率が10%以上の集落を指す。市は、集落カルテの作成を通じて、集落の課題を把握し、支援策を講じていく方針である。

## 自治会の課題 把握へカルテ

自治会の課題を把握し、支援策を講じるための重要な手段である。集落カルテの作成を通じて、集落の課題を把握し、支援策を講じていく方針である。

## 【進捗状況】R4.11.19現在

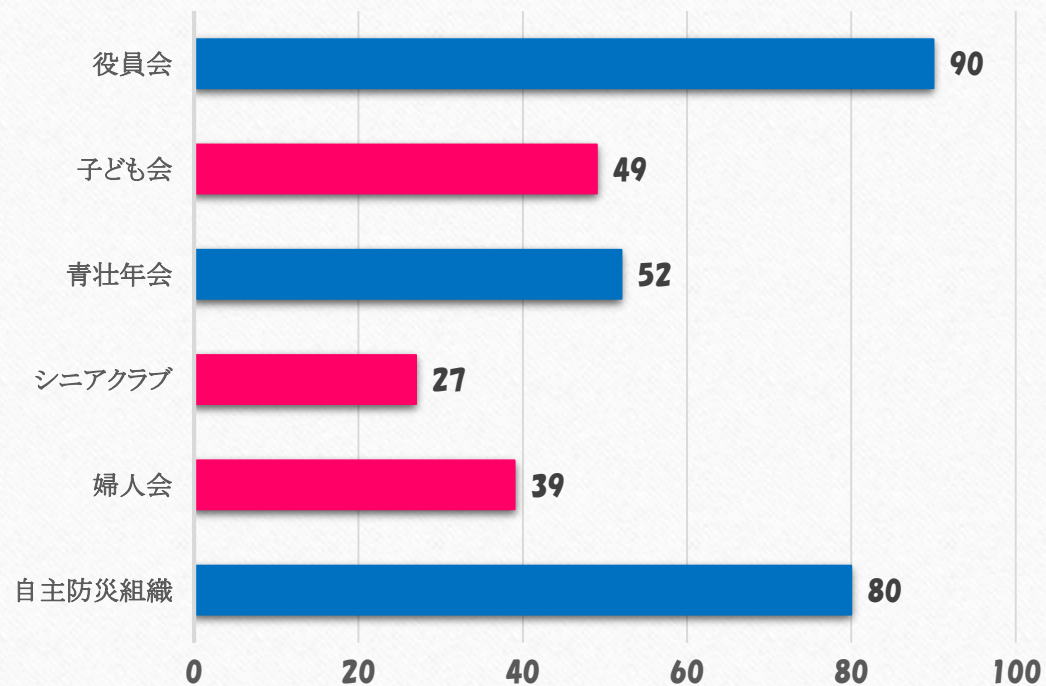
**限界集落(65歳以上が過半数) : 20集落**

**準限界集落(55歳以上が過半数) : 66集落**

## 86集落の調査を実施

# 集落カルテ調査で判明したこと その①

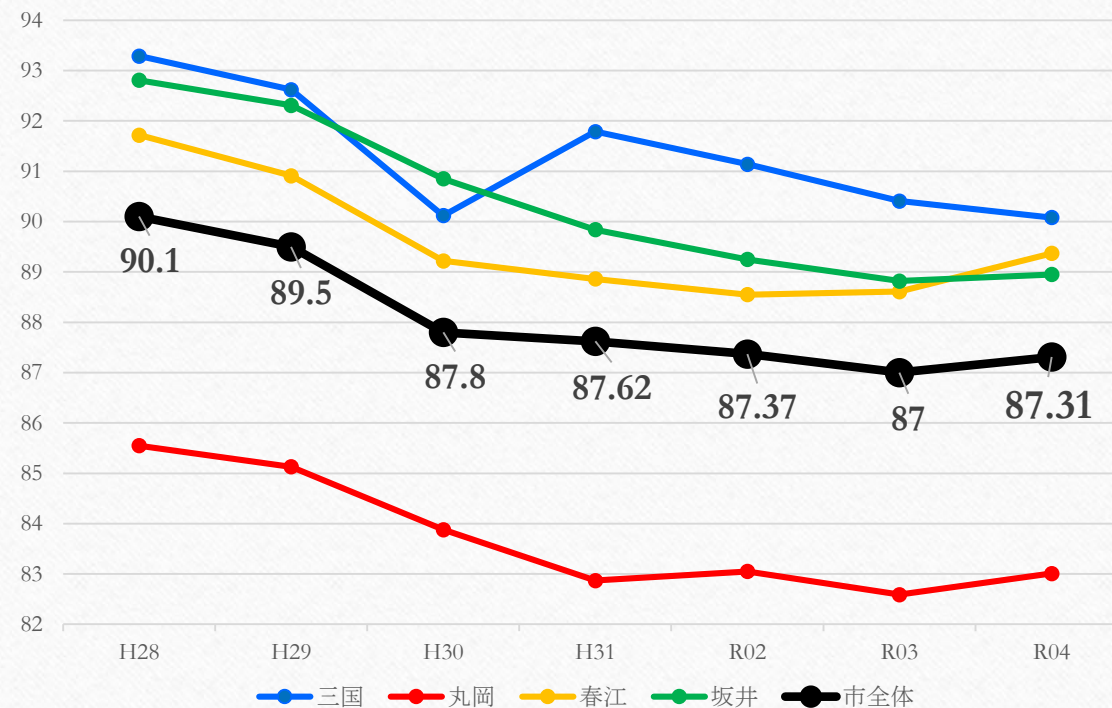
## 集落組織の組織率(%)



子ども会・シニアクラブ・婦人会の結成率は半数以下  
近隣の集落で協力して活動している集落もある

集落同士での **つながり** もある

## 集落への加入率

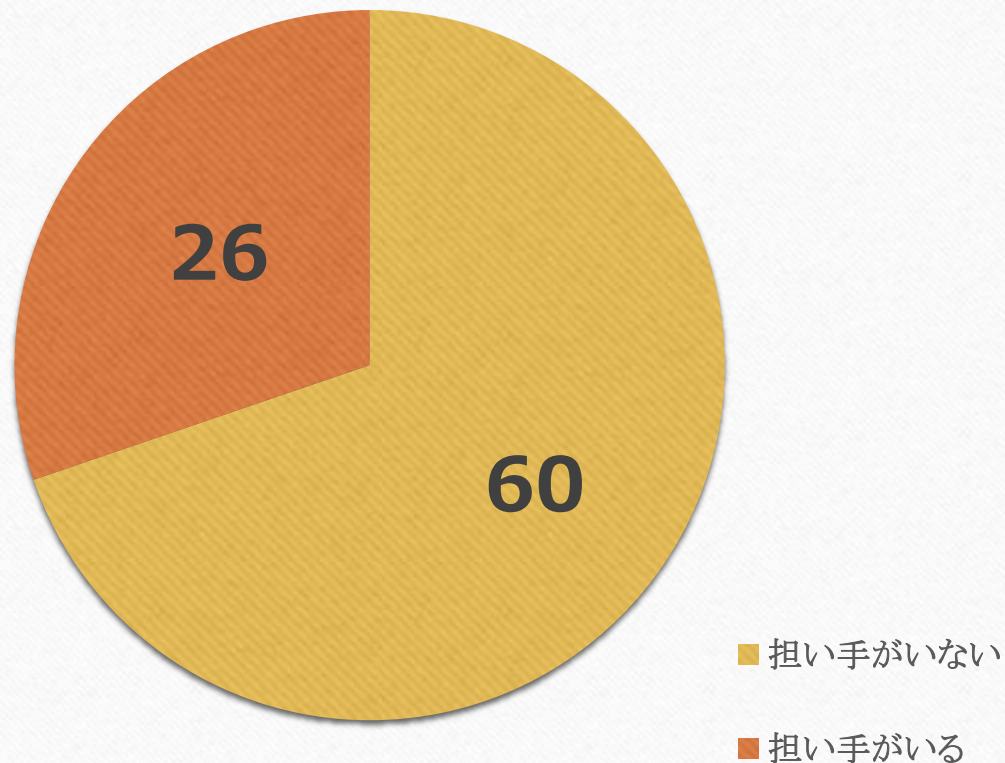


坂井市全体での加入率は87.31%  
しかし、調査した86集落での加入率は90%以上

集落内での **つながり** がある

## 集落カルテ調査で判明したこと その②

### 役員の担い手の有無



#### 【担い手がいないと回答した60集落】

- 若者世代が集落へ出て行き、戻ってこない
- 役員を担える能力がある人材がない
- 人口は多いが、集落活動に参加しない人が多い

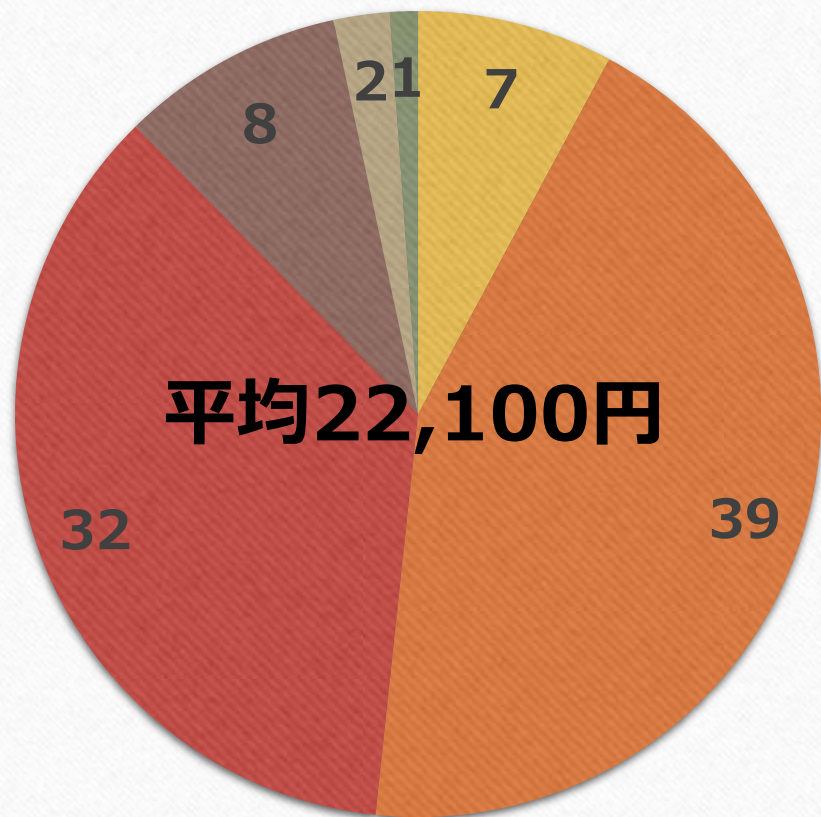
#### 【担い手がいると回答した26集落】

- 就職や退職のタイミングで地元に戻ってくる
- 業務の簡素化を行い、誰でも役員を担えるようにした
- 集落内での居場所をつくり自発的に協力してくれる

**担い手が増加する“仕掛け”を何年も前から実施し、  
“結果”として現れるように**

# 集落カルテ調査で判明したこと その③

## 年間の区費



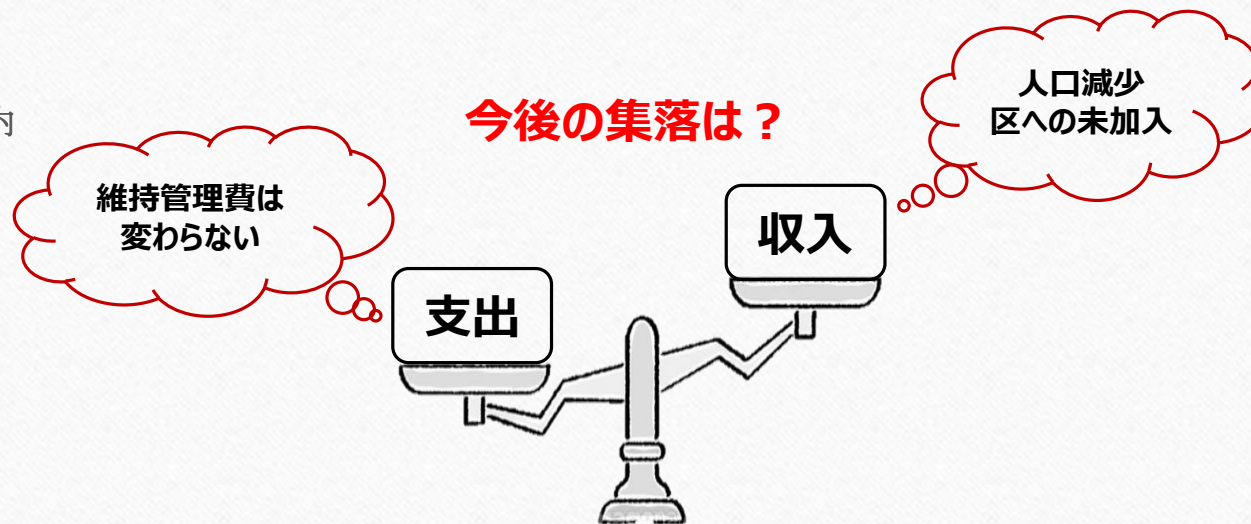
- 1万円以内
- 1万円台
- 2万円台
- 3万円台
- 4万円台
- 5万円以上

### 【支出例】

- 集会施設・防犯灯・区道の維持管理、子ども会・老人会などの活動費補助、区内の行事、募金 など

### 【収入例】

- 区民からの区費、区内企業からの区費・賛助会費 など

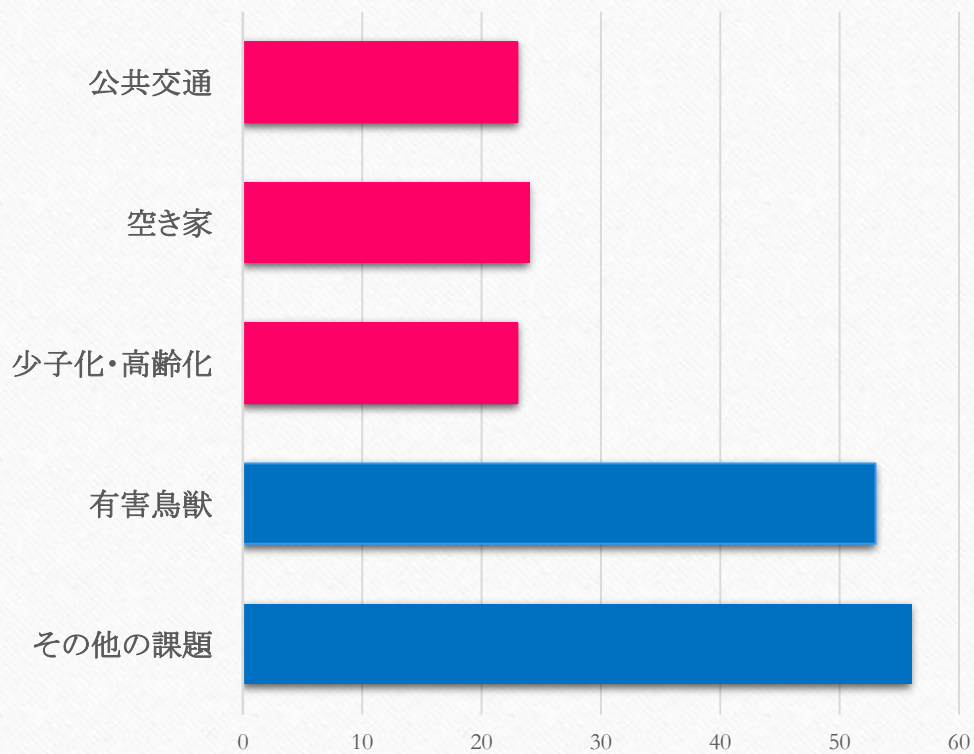


区内行事をなくし支出を減らす？

区費を増加させ収入を増やす？

# 集落カルテ調査で判明したこと その④

## 集落での困りごと



### 公共交通

公共交通機関がなく不便、コミバスのバス停まで距離がある

### 空き家

倒壊の恐れがあり危険、有害鳥獣の住処になっている

### 少子化・高齢化

集落内に活気がない、役員の高齢化

### 有害鳥獣

田畑作物の被害、カラスのフン害

### その他の課題

排雪場所がない、街灯が少ない、集会施設が古い

集落内コミュニティが悪い、区の存続が困難 など

# 集落での課題

## 調査した86集落の共通課題

### ①人口減少・少子高齢化により集落内の担い手不足

(今後数十年間で集落内の担い手がなくなる可能性があるとは回答したのは60集落)

### ②集落内の世帯数減少により区費の減少および財政のひっ迫化

(令和4年までの10年間で世帯数が減少した集落は61集落であるが、集会施設や防犯灯の維持管理費用は増加の一途)

## 調査した86集落の共通課題

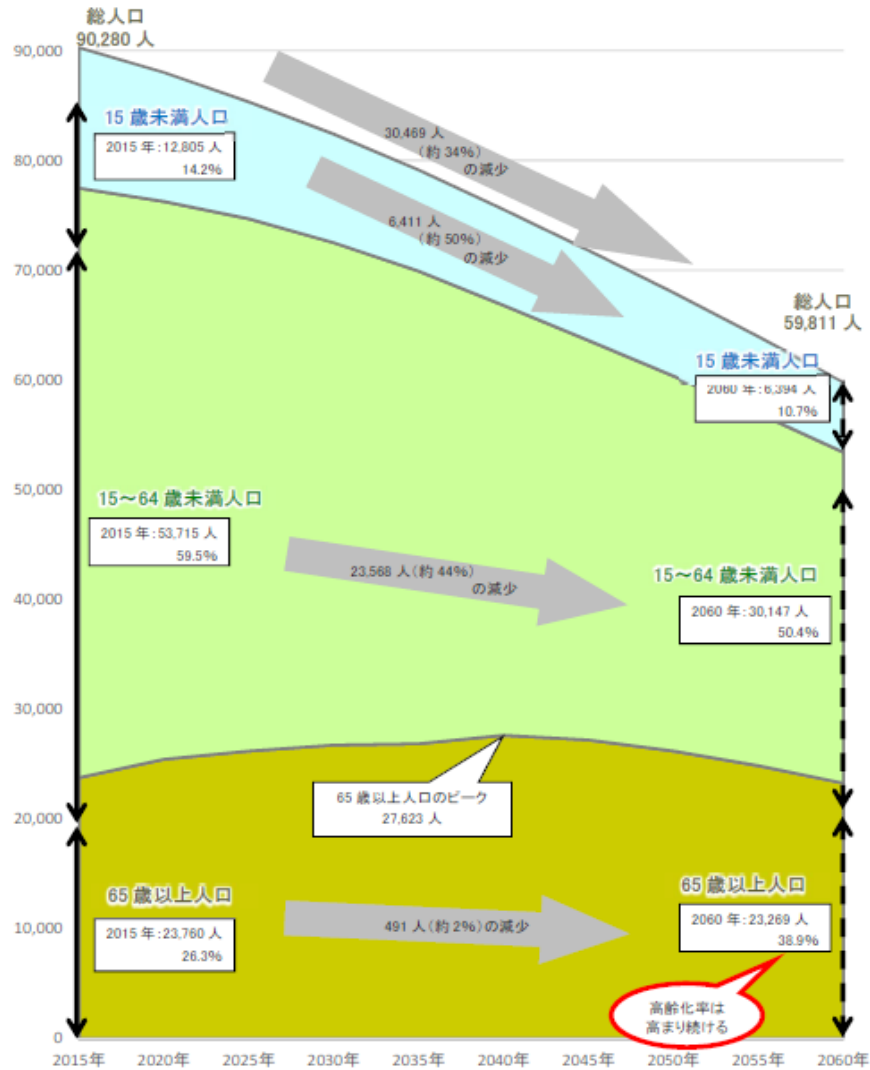
### ③人口減少・新型コロナによる区内行事やまつりの減少によりコミュニティの希薄化

(数十年の間に集落内での行事がまつりがなくなり、現在では35集落が集落内での定期的な関わりはないと回答)

### ④高齢化の進行や施設入居者の増加により空き家件数の増加

(令和4年までの5年間で空き家が増加したと回答した集落は55集落)

# 坂井市の現状と今後 (2020年坂井市人口ビジョンより)



年		人口	65歳以上人口	高齢化率
2040年 (20年後)	市全体	75,351人 (2006年より-19,562人)	27,624人 (2006年より+8,493人)	36.6%
	三国	16,666人 (2006年より-7,006人)	5,317人 (2006年より-91人)	31.9%
	丸岡	24,975人 (2006年より-8,321人)	9,768人 (2006年より+3,468人)	39.1%
	春江	23,974人 (2006年より-1,688人)	9,036人 (2006年より+4,137人)	37.7%
	坂井	9,916人 (2006年より-2,547人)	3,503人 (2006年より+979人)	35.3%

最新の人口集計表 89,525人  
 2060年の人口予測 60,000人以下

約40年間で人口は2/3に減少

**100人いた集落も70人以下になる**  
**集落の機能を維持するためには・・・**



## 集落(区)とは・・・

地域の人々によって組織された地縁による団体であり、  
住民により行事の内容・集落の運営方法・区費の金額、  
使い道などすべてが決める

⇒住民全員の参加、住民同士の助け合いが必要不可欠



### 自助：集落に参加する

- 集落内で自分ができることを見つける
- 集落の課題を自分事として捉える

### 互助・共助：集落内で課題を解決

- 住民全員が集落運営に関わる
- 助け合い（高齢者宅の雪かきを若者世代が手伝う など）
- 集落と集落が協力して集落運営を行う

### 公助：行政による支援

- 集会施設や防犯灯修繕費用の補助により財政負担を軽減
- 区長の業務負担を減らすため、文書配布・回覧板を電子化
- 身近な相談窓口の充実